

和歌山保健看護学会設立趣意書

近年、地域医療のニーズが高まるなか、中核病院の医師・看護師不足が慢性化し、医療を取り巻く環境がますます厳しくなっています。保健看護職は、人々の健康づくりのために、また人々が満足できる、安全で質の高い医療のために重要な役割を果たしている専門職です。現在、医学医療の進歩はめざましく、専門的知識、技術を備えた人間性豊かな保健看護職が社会から強く期待されています。

本学会は、和歌山県立医科大学保健看護学部設立の理念を継承し、保健看護学の進歩・発展と卒業生および教職員など相互の研鑽・親睦をはかり、地域の総合的な保健・医療・福祉を推進することを目的に、2009年に和歌山県立医科大学保健看護学会として設立されました。さらに和歌山から全国の保健・医療・福祉の発展に貢献すべく、2018年に和歌山保健看護学会と名称を変更しました。

和歌山県をはじめ、全国で、保健看護領域の臨床、教育、研究、行政などで活躍されている皆さん、社会人として多くの貴重な体験をされていることと思います。種々の経験を踏まえた学術的な知見を通して、物事の本質を見抜くことの重要性を知り、科学的根拠に沿った論理的思考力を深め、医療という不確実な分野で変化する状況に的確に判断し、行動する質の高い医療人としてさらに研鑽をつむことができると考えています。また、互いに議論し学术交流をすることで医療人としての意識を育むこともできると考えています。

医療は、人の人生の最も大切な部分に関わることが許されている職業です。仕事を通して2人として同じ人間はいないということを知ることができます。これは医療の実践における最も素晴らしいことの一つです。患者さんを癒し、1日も早く家庭や社会へ復帰させる仕事は崇高です。人々が生まれ、育ち、暮らし、働き、老いる環境こそが乳幼児期、青壮年期、老年期の健康に深く影響しています。

研究のための研究でなく、「何の役に立つのか？」を絶えず問いかけることが大切です。世の中の役に立つことの究極の目的は「人々を幸せにすること」です。この学会に参加することで多くの人たちに出会い、お互いの体験や環境の違いなどからの発想や行動の差を認め合うことのできる機知に富んだ人材になることを期待しています。そして究極的には地域の人々の幸せと健康長寿に貢献して頂くことを願っております。

和歌山保健看護学会 発起人代表 有田幹雄